

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 20

千葉県立犢橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

基本的な生活習慣や思いやりの姿勢が身に付いており、本校を志願する理由が明確で、次のいずれかに当てはまる生徒。

ア 中学校生活で身に付けた生活習慣や学力を、入学後もさらに伸ばそうとする意欲がある。

イ 中学校での部活動等で優れた資質や実績を得ており、入学後も3年間当該部活動を継続しその力を伸ばしていく明確な意志がある。

ウ 中学校での生徒会活動やボランティア活動等の経験を生かし、入学後も特別活動や福祉の学びなどに積極的に取り組もうとする意欲がある。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
①面接	受検者4名程度(受検者数による)・評価者2名の集団面接 検査時間: 1グループ約10分
②自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 文章による自己表現 実施形態: 検査室で一斉に実施 検査時間: 50分 字数: 401字以上600字以内 イ 実技による自己表現 実施形態: 個人またはグループで実施 検査時間: 50分 次の実技種目のうち1つを選択 バスケットボール(男女)・バレーボール(男女)・野球(男)・剣道(男女)・ 硬式テニス(男女)・陸上競技(男女)・サッカー(男)

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 [320点満点]

アの数値に、エについて加点(上限50点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=2$ を乗じた数値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録・部活動の記録・特記事項	学級活動、委員会活動、生徒会活動、学校行事、部活動、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については、加点(上限50点)する。 なお、各種検定については、実用英語技能検定(英語検定)・日本漢字能力検定(漢字検定)・実用数学技能検定(数学検定)の3級以上を加点対象とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査 [150点満点]

①面接 [50点満点]

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(標準に達していない)・d(問題がある)の4段階で評価する。

2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ(a a ~ d d)で得点化する。評価dが1つでもある場合及び評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機・質問に対する応答・高校生活への意欲	志望の動機が明確である。質問内容を理解し、適切に回答することができる。高校生活（学習・部活動等）に対する意識が明確である。
イ 身だしなみ・態度・言葉づかい	服装・頭髪等、身だしなみが整えられている。面接作法が身に付いている。面接にふさわしい言葉づかいをすることができる。

②自己表現〔100点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（標準に達していない）・d（問題がある）の4段階で評価する。

2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（a a～d d）で得点化する。評価dが1つでもある場合及び評価cが6つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 文章による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。文章の構成がわかりやすく論理的であり、全体としてのまとまりがある。
(イ) 言語表記	原稿用紙の使い方が適切である。文字・単語の表記が適正で誤字や脱字がなく、語彙・文法を正しく用いている。
(ウ) 文章表現	口語表現がなく、文末の表現が適切である。文章表現が適切であり、表現する意欲がある。
(エ) 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。内容が自らの体験等に基づいており、説得力がある。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 体力・運動能力	当該種目を行うための基礎的な体力が備わっている。当該種目を行うための基礎的な運動能力が備わっている。
(イ) 技術・技能	当該種目における基本的な技術を身に付けている。当該種目における専門的な技能を身に付けている。
(ウ) 資質・適性	当該種目の能力を向上させる資質が備わっている。当該種目に対する適性があり、堅実に3年間活動することが期待できる。
(エ) 意欲・態度	当該種目で自らを意欲的に表現できる。当該種目に真摯かつ前向きに取り組む姿勢・態度が認められる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査(面接・自己表現)の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。
 <総得点の満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点		総得点
	評定(K=2)	加点	面接	自己表現	
500点	270点	50点	50点	100点	970点

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはいししない。

5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面談を行う。